

令和5年度 粟ノ保小学校だより

令和6年2月14日 NO.22

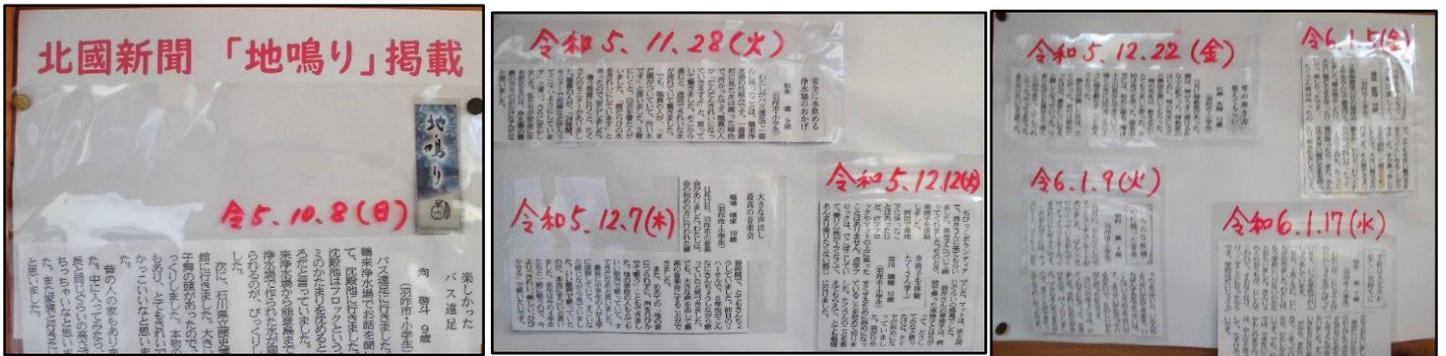


ひまわり

羽咋市立粟ノ保小学校
校長 田中 利弘

スローガン【すべては 子どもたちの 心の笑顔のために】

◇北国新聞社：『地鳴り』への投稿◇



本校では、学校での学びを深める（学んだ知識を生かす）ために、「書く」活動を通して自分の思いをアウトプットしています。帯タイムでの「条件作文」も年間を通して「テーマを決めて」取り組んでいます。さらに今年から「地鳴り投稿」への挑戦を始めました。学校生活や特別授業、学校行事を通しての体験活動等「振り返り」をしています。その中から学年でテーマをしばって投稿しています。

今日現在で、17人（24.6%）。本校4人に1人が掲載されたことになりました。友だちの上手な表現など参考にし、自分の文が載ると素直に喜ぶ姿も見られます。今度は自分もがんばろうという意欲も高まり全体としてモチベーションが上がっているようです。これまでの掲載文はすべて職員室前に掲示してありますので、来校の際にご覧いただければ幸いです。

◇北国デジタル新聞：6年生の取組◇

羽咋市教育委員会は、3学期より「デジタル新聞（北国新聞・電子版）」を6年生に提供してくれました。保護者や地域の皆様は、登録して利用されている方もいるのではないのでしょうか。

提供されたデジタル新聞の活用方法は次の通りです。児童が、興味ある新聞記事を選択し、その記事からどんなことを思ったかを毎日短い時間で発表しています。同時に内容の質問もしています。この日は、能登半島地震後、七尾市一本杉町商店街での復興マルシェの記事を読み、感想と質問をしていました。続けることで読む力が付いていきます。



◇羽咋市への義援金：感謝◇2/7(木)

群馬県藤岡市は、羽咋市と友好関係都市を結んでいます。このたび、藤岡市立日野小学校が令和6年能登半島地震に対して、義援金の募金活動をしてくださいました。羽咋市を代表して粟ノ保小代表委員会がオンラインではありましたが、感謝のメッセージを伝えさせていただきました。



群馬県藤岡市立日野小学校HPより 令和6年2月7日(水)

粟ノ保小学校の代表委員の皆さんからは、義援金への感謝のメッセージをいただきました。また、本校からの質問に答える形で、地震被害についてや徐々に日常生活を取り戻して頑張っている様子をスライドで紹介してくださいました。

校長先生からは、水道が使えない中でお弁当持ちでの学校生活の一端をお話いただき、勉強ができることを当たり前と思わず、一生懸命勉強してほしいとメッセージをお送りいただきました。最後には、5・6年生が作成した「がんばれ羽咋市」の横断幕とともに声援を送り、手を振り合いました。今回のオンライン交流を通して、貴重な時間を共有することができ、子どもたちもいろいろな思いをもったことと思います。粟ノ保小学校の校長先生を始め教職員、児童の皆さんからのメッセージを大事にしていきます。ありがとうございました。

大変な時期が続くかと思いますが、皆さんのご健康と石川県の復興を心よりお祈り申し上げます。

◇校長の雑感◇

さて、2月に入りました。一年で一番寒い時期を迎えています。春と聞くと、「わくわく」します。早く来てほしいと昔の人も願ったんでしょうね。春といえば、代表は「桜」ですよね。何本も何本もならんで咲いている満開の桜は、何とも言えません。桜の名所なる地は、全国に津々浦々あります。どの場所も見応え十分です。



でも、ある人は葉もない「冬の桜」が好きという人もいます。不思議に思いませんか。一年で最も寒くてつらい冬の今、桜はそれでも凜として枝を空高く突き出しています。冬の桜は、春に満開の花を咲かせるために、土の下の「根っこ」で栄養をとりながら準備をしているのです。

桜の花が一番頑張っているのが今なのだそうです。だから好きなんだそうです。一番頑張っている姿が美しい。この話は深いですね。私たちの生活にも十分生かしたい気持ちになりますね。見えない頑張り(地道なコツコツ取組)が、満開の花を咲かせる準備になっているんですよ。